

児童公園から街区公園へ ～小さな公園の再編～



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

赤澤 宏樹

小さな公園は、子どもが遊ぶための「児童公園」として多く整備されてきました。似た公園ばかりになり、子どもの数も減ってきたので、平成5年に「街区公園」に変わりました。子どものための三種の神器（ブランコ、すべり台、砂場）を置かなくてもよくなり、子どもから大人まで全ての住民が使いやすい公園に生まれ変わることができます。しかし、1つ1つの公園をどうするか意見を聞くと、「遊具はらない」とは言いにくい状況が続いています。

近年、多くの自治体で積極的に小さな公園を再編しようという動きがあります。例えば、芝生の原っぱのような公園にしたり（写真上）、未就学児用の遊具にしたり（写真下）して、いくつかの公園を使い分けることができるようにするのです。林のような公園や、虫取りができる草むらのような公園もあるかもしれません。

このような色々な街区公園に変えるために、地域の皆さんが小学校区くらいの範囲で公園をみて、「ここは子どものため」「ここは高齢者のため」「ここはペットのため」と、楽しみながら考えてみてはいかがでしょうか。

